

神山進化論

人口減少を可能性に
変えるまちづくり

神田誠司

徳島県
神山町。
地方再生の
最前線が
変わろうと
している
移住者、地元住民、
行政のつばが
農業、林業、建設業、
教育の未来に
挑むドキュメント。

学芸出版社

『神山進化論』

人口減少を可能性に変えるまちづくり

神田誠司(著)・学芸出版社・10月24日発売

徳島県神山町。人口5300人、志の高い移住者が集まる地方再生の先進地。町は今、基幹産業の活性化、移住者と地元住民の融合、行政と民間企業の連携、担い手の世代交代などの課題解決のため、農業、林業、建設業、教育の未来をつくるプロジェクトに取り組む。100人以上のプレイヤーたちに取材した現在進行形のドキュメント。

[目次]

はじめに一なぜ、神山は進化し続けるのか?

1章 不思議な田舎ができるまで

2章 IT企業が実験する創造的な働き方

3章 なぜ移住者は神山をめざすのか

4章 町の未来を自分事にする—地方創生戦略づくり

5章 官民連携の実動部隊—神山つなぐ公社

6章 農業の未来をつくる—フードハブ・プロジェクト

7章 林業・建設業の未来をつくる—大埜地集合住宅プロジェクト

8章 教育の未来をつくる—地域のリーダーを育てる農業高校

9章 なぜ神山は前進するのか

おわりに—仮説をひっくり返される快感

著者：神田 誠司

1959年生まれ。愛媛県で育つ。1983年朝日新聞入社。1990年から大阪本社社会部で地方行政を担当。1998年から東京本社政治部で首相官邸や自治省(当時)を担当。2005年から2018年3月まで大阪本社で地方分権・地方自治担当の編集委員を務めた後、地域報道部記者。関心分野は、まちづくり、地方再生、地方議会、地方移住、貧困と格差など。